

令和元年度第2回 長野市総合計画審議会 会議録

日 時：令和元年7月24日（水） 午後3時から午後5時まで

場 所：庁議室（第一庁舎5階）

出席者：委 員/荒井委員、池尻委員、市村委員、伊藤委員、大日方委員、金物委員、萱津委員、熊井委員、小木曾委員、清水委員、轟委員、廣田委員、梅干野委員、牧野委員、山崎委員、横地委員

長野市/ 倉石総務部長、酒井企画政策部長、清水財政部長、増田地域・市民生活部長、樋口保健福祉部長、北原こども未来部長、宮尾環境部長、高橋商工観光部長、倉島文化スポーツ振興部長（代理：鈴木スポーツ課長）、倉島農林部長、小林建設部長（代理：道路課岩片次長）、伊熊会計局長、竹内教育次長（行政）（代理：教育委員会総務課富岡主幹）、永井教育次長（教育）、西澤上下水道局長、島田消防局長（代理：通信指令課鈴木次長）、鎌田危機管理防災監

事務局/（企画課）日台次長、羽田補佐、宮坂係長、白澤主査、小林主事
（人口増推進課）事務局、宮下補佐、飛澤主査

1 開会

（事務局）

定刻になりましたので、これより長野市総合計画審議会を開会いたします。

本日の資料ですが、事前にお送りいたしました次第と資料1-1から1-4、資料2-1から2-9までございます。

本日は、青柳委員さん、黒岩委員さん、藤原委員さん、宮沢委員さんから欠席のご連絡を頂いておりますのでご報告いたします。

はじめに、金物会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

（金物会長）

本日は「総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況について、また、「総合戦略」の延長方針について議事を予定しております。

今後、長野市における人口減少対策をより効果的なものにするため、どの様なことに具体的に取り組んでいくのがよいか、本日の審議会を皆さんで活発に意見を出し合う会議にしたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

3 議事

(事務局)

ありがとうございました。

次第3の審議に移らせていただきますが、議長につきましては、金物会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(金物会長)

それでは、議事に入ります。

議事の1番として、「第五次総合計画」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況についてご説明をお願いします。

(事務局)

企画課長より資料1-1と1-2まで説明

人口増推進課長より資料1-3と1-4まで説明

(金物会長)

ありがとうございました。

昨年度、第五次総合計画2年目で「まち・ひと・しごと創生総合戦略」4年目であります。それぞれの進捗状況についてご説明がありました。

内容的には、議事の2番目に繋がるものですので、議事の2番目と併せて審議を行っていきたいと思いますので、議事の2番目、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の延長方針について引き続き事務局の方からご説明をお願いします。

(事務局)

延長方針 資料2-1から2-9まで説明

(金物会長)

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が今年度で一旦最終年となりますが、この後、2年間は延長してその後は総合計画の後期基本計画と一体化するという事で進んでいくという訳で、この審議会では、総合戦略の延長にあたって2年間で、どのような事項を重点的に取り組んでいくのか、また、新しい視点を取り入れるべきかについて、皆さまからご意見を伺いたいということです。資料2-3の一番上に論点があるように、「現行の体系の中でどの事項を重点的に取り組んでいくか」について積極的に皆さんからのご発言をお願いします。

(大日方委員)

重点的にどこの部分に取り組んでいくかについて、「こういうものがある」というものを事務局で既にお考えだと思うが、それについて「私がどう思うか」ということは言わせてもらうことはできると思います。

理解が進んでない中での発言は無責任な発言になってしまう。そういった事務局案はあるのでしょうか。

(事務局)

あらかじめ案をお示ししてご意見をいただくという進め方もあろうかと思えます。

2月の審議会で沢山のご意見を頂戴しておりましたので、いったん事務局で、今の段階で整理をさせていただいております。

傾向として KPI の進捗で見ますと、目標 1 の雇用創出分野は比較的進んでいる感じがあり、この部分へのご意見は比較的になかったです。逆に目標 2 の移住関係にはかなり多く意見をいただいたと思っています。当然全部の分野についてできれば一番良いのですが、特にこの部分から取り組んでみたらどうかというところから議論いただくのもいいのかなと思っています。

例えば、先程の国の方針の中で、関係人口という話をさせていただきましたが、既にいただいている意見と合わせることで、ある程度の提案の形になっていくのではないかとすることがございましたので、今日のところは、皆様の自由な発想でご意見をいただくほうがいいのではないかと考えております。

(金物会長)

話のきっかけとして、なかなかいい質問をしていただきました。市民アンケート等を含めて目標 2 の辺りではないかと思っていらっしゃるということでしょうか。

(事務局)

市民の方にお答えいただいたアンケートなので、現実問題として雇用や福祉、子育て分野にどうしても要望が強くなったイメージです。逆に、その部分は充実し始めている部分でもあるかと思っており、KPI でもどちらかというところと良い結果が出ています。移住関係については、市内に住んでいる市民の皆さんにとっては、実感をなかなか持てない部分でもあるということで、KPI の実績からは遅れている感じが強いということだと思っています。

(小木曾委員)

質問ですが、戦略の延長はこの会議で延長するかどうかを決めるということによろしいでしょうか。

(事務局)

基本的には市側で決めています。

最終決定は、市の方での機関決定ということになりまして、2月20日の審議会でご説明させていただいて、ご意見をいただいた結果を踏まえて最終的には長野市が決めております。

(小木曾委員)

ありがとうございました。

今回、延長する期間が2年と非常に短いため、新しい総合戦略が出来たとして、市が重要だと思っているものが入ってくると思います。そういったことから、延長した意味があるのかということと、新しくいろいろな視点を取り入れて、改めて新しい戦略を立てた方がいいのかどうかと思っているところです。

(事務局)

地方版総合戦略の要否としては、全国で総合戦略を作っていないのは東京都中央区だけになっていますので、事実上作ってくださいということなのかと思っています。

延長しないという選択もありえますが、国の延長を踏まえて改訂をしようという方針が国から示されていますので、長野市としては作っていくべきだと考えています。

もう1つが、地方創生を推進するための交付金の存在があり、総合戦略が策定されていることが交付金の前提になります。推進交付金が無くなると、現在、行っている移住関係の取組は、市の単独の予算で実施することになるため財政的な意味からも戦略自体は必要と考えています。

ただし、その中で、本当に長野市として何をすべきなのかという部分には、もう少し色を出してもいいのではないかと事務局としては考えているところです。

(小木曾委員)

ありがとうございました。

延長するかしないかについてはよく分かりました。

そういうことであれば、是非、延長の上で、交付金を活用いただくようお願いします。

(梅干野委員)

長野市としての色を、というお話がありましたけれども、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のサブタイトルのようなものを作る意思是長野市にあるのかということと、目標が4つ横並びになっており、先程のお話ですと、目標1、2、3、4の基本的方向の中からいくつかを重点施策のようなものに格上げしていくというイメージをもってよろしいでしょうか。

(事務局)

サブタイトルまでは事務局としては考えていない状況です。これについては、ご意見いただいた中で付けられたらいいのかなと思います。

もう1点の重点化ですけれども、当然のことながら予算的な重点化にも繋がっていくということになりますので、できることであれば絞り込んでいただけたらありがたいと思っています。

(梅干野委員)

分かりました。ありがとうございます。

総合戦略をどこの行政が作っても同じようなものが出来上がってしまうというのが、今の総合戦略の問題点かと思っています。

重点化するのであれば、その重点の部分で市民や、市外に対して発信をして、人を呼び込んでくるようなことを進めていく必要があります、サブテーマやキャッチフレーズといったものが重要になってきますので、そういったことも総合的に考えていかなければいけない問題かと思いました。

(金物会長)

今の発言は、今進んでいるプロジェクトの延長で2年ということと、梅干野委員がおっしゃるのは、言ってみればそれ以降のことを含めた視点になりますよね。

(梅干野委員)

延長する際にも、これは再編される可能性があるのであれば、重点項目として格上げをして、きちんとテーマを付けていく、しっかり発信していくということに取り組んでもいいのかと思います。

(金物会長)

ありがとうございます。良くわかりました。

(萱津委員)

2年延長して、また2年という流れになるのですか。交付金をもらうだけのために戦略をつくるように思える部分がありますが、その点いかがでしょうか。

(事務局)

ご説明が不足して申し訳ありません。

2月20日にご説明した段階で、次期の総合計画後期基本計画は5年間を予定してしまし

て、戦略も5年間で予定しています。

5年と5年の間に、2年間だけ今回隙間ができてしまいましたので、この間だけを埋めるということなので、2年での更新の予定はしていません。令和4年度からの後期基本計画までのつなぎ部分とだけご理解いただきたいので、交付金をもらうためには必要ではあるけれども、中身としてどのように作るかというのは、5年先、10年先をにらみながら、この中で延長していくことを考えていただけたらと思います。

(池尻委員)

2年延長されるということで、長野市の色を入れていくということがすごく大事かなと思います。一市民として、長野市はこういうカラーというのがなかなか見えないというところがあります。それは、例えば中核市として人口もそれなりにもあり、1と行ってすぐに2というような規模ではないということもよく分かりますが、せつかくこの2年があるのであれば、思い切ったことに取り組んでみたらどうかと思います。

それを実行するためには、練っていく時間も必要ですが、今まで上手くいかなかった部分は、なんとなく皆さんの中にも「こんなのありきたりだよな」とか、「やっぱりまたこれか」という、一市民としてそういう感じで受け取れる部分があります。

でも、今、特に小さい市町村を中心にカラーが変わってきており、頑張っている市町村が多いなと感じます。

移住を考えると、長野市に魅力がないと絶対に人は集まらないと思います。ありきたりの中核市だったら、決して誰も振り向かないのではないかと。

であれば、今までうまくいかなかった部分をグループで議論して絞り込み「目玉商品」としてこの2年間の中で取り組み、振り返りをした上で次の5年間に繋げていくという、そういう期間であっていいのかなと感じます。

(金物会長)

いかがですか。なかなか難しい話ですけども。ありがとうございます。

このご意見どうでしょうか。

(轟委員)

資料で確認をしたいことがあるので、よろしいでしょうか。

資料2-1で、今回の延長の方針として、基本的には、以前お配りしていただいた平成29年10月の「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」というのは、原則継続であるという認識です。そこに、今回、国の第2期総合戦略の新たな視点を追加するというニュアンスだと思いますが、その時に、資料2-5の基本的方向というのは、その新たな視点を追加したのになっているのか、それとも平成29年度ベースなのかを教えてくださいませんか。

(事務局)

まだ、何も加えておりません。

ここが一番書き換えられる部分になると思います。ここにもっていくために、この下にぶら下がる具体的な取組をご提案から絞り込んでどういう色合いを出していくのかというニュアンスになります。

一番上の目標はタイトルの部分になりますが、今回は延長なのでなかなか難しいと感じておりますので、基本的な方向の部分をしっかり議論いただいて、揉んでいただくのがありがたいと思います。

(轟委員)

ということは、この基本的方向に基づいて今後の2年間具体的にどういう取組を実施していくのかということは、長野市で検討いただけるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。その部分が前回の審議会でご説明しましたアクションプランになります。実際何をやるのか、予算をどう付けていくのかというところを、前は、前任の委員さん方の中で議論いただいたものを落とし込んだ結果のご説明でしたので、現在の委員さんには非常に分かりにくかったと思います。今後は、皆さま方から頂いた意見を取り込んだ中で事業を進めていくため、少しは分かりやすくなっていくかと思っております。

(伊藤委員)

まず、交付金の話ですが、内閣官房で審査されるということで、交付金が貰えるか貰えないかは十分理解はしていますが、交付金は既に支給されているのかということと、延長することによって長野市は交付金をいくらもらえる予定でしょうか。

それは、予算にどの程度の影響があると思っていらっしゃるでしょうか。

(事務局)

直接的にいくらになるかというのは、来年度以降のことは難しいですが、資料1-3に推進交付金の活用状況をお示ししております。国の交付金制度は、基本的には各自治体間の競争になっています。自治体が提案をしていいものには交付金を付けるという仕組みになっていますので、ここが地方の知恵の出どころになっております。

長野市には、平成30年度の実績として3件あり、予算として執行した額が1億3,500万円弱、交付金として貰えるのはその半分になりますので、6,730万円ほどをいただいております。来年度以降については、3年間の継続事業であるものについては交付されますが、終了したものについては、また新しい事業を考えて申請していくことになります。

(熊井委員)

今、交付金を貰う金額は競争とおっしゃいましたよね。ちょっと私聞いてびっくりした一方で、合点がいったケースがあります。

長野ブランドの扱いについて、もったいないなと感じています。

「長野」というのは、実は海外で非常にネームバリューがあります。

昨年1月に山ノ内町が米国のコロラド州のベイルと姉妹関係を結びました。また白馬村は、同じくコロラド州のベイルと白馬バレーという広域事業の一環として提携を結んで今年からシーズンパスの共有化を始めました。インバウンドだけでなくアウトバウンドも含めた企画が動き始めたと感じています。

7つの市町村が共同でベイルと提携を結んだ訳で、ビジネスとして非常に大きな雇用創出があると聞いています。

この様に、長野市と周辺の9市町村以外の隣接したエリアで、長野ブランドを使って世界とつながっています。長野市は何をやっているのでしょうか。せつかくの長野ブランドが、周りの市町村に利用されています。

また、御開帳は非常に集客力がありますが総合戦略で記載がないと思ったのは、戸隠です。数年前にキャンペーンを実施したとき、御開帳と同じくらいの集客がありました。現状も奥社には聖地巡業で日本全国から人が来ているはずですが。

それともう一つ、8月の1ヶ月間、松本空港と大阪とで1ヶ月間の季節運航が始まります。しかし、松本空港から長野までのアクセスバスがない。ぜひ、松本空港長野駅経由戸隠までのバスの路線を1日1本季節運行といった企画支援を長野市でしていただくと関西からの集客があると思います。また、旅行会社に対してそれを要請するというのも長野市の大きな課題として取り組んでいただけたらと思っております。

ちょっと具体的な話をして申し訳ありません。

(事務局)

ご提案ですが、先ほど目標2についてお話をさせていただきましたが、必ずしも目標2が絶対だと思っているわけではなく、そこはそれぞれ自由にご検討いただいていると思っています。

当然、雇用の創出は市民にとって満足度が高いとしても、実際、先程言われましたとおり、Uターン移住者にとって、帰ってこられるだけの仕事があるのかや、魅力的と言える部分をどうするのかといったこと。

また、これまで頂いたご意見の中で特に多かったのが情報発信がうまくできていないのではないかといた部分です。様々な事業を実施しているのだからけれどもそれが伝わっていかかったり、うまく見せられていないのではないかとのご指摘が多く委員さんからいただいていると感じております。

仕事は子育ても含めて考えていかなければといったことや、それぞれの施策は1つ1つの事業としてはできているかもしれないが、関連性が薄い、例えば、AとBという事業と一緒に実施すればもっと良いとか、AとBをつなげてやるべきではないのかというご意見に近いものをいただいています。

そういった部分を皆さんが普段感じていらっしゃる中で、行政のやり方とすれば、こういうところを直していけばもっと市民に良く受け止めてもらえる、当然それは、市外にいる長野市に来たいと思っている方にも受け止めてもらえるのではないかというようなご提案の仕方でも良いと思います。

単純にこういった事業が良いのではないかとではなく、こういう部分をもう少し見直していったら、といった観点でもご意見いただけたらと思います。

(金物会長)

そういう意味では、熊井委員さんがおっしゃった、長野ブランドを活かしきれていないというご意見だと思いますけど、そういうことも含めてですね。

(事務局)

まったく新しいというより、この部分をもう少し、こういう部分をもう少しこういうふうに変えられればとか、何が変わればいいのかというところがご意見として出てくれば、非常に分かりやすいのかなと思います。

(清水委員)

今、私は高校生の教育の部門と発達障害や精神障害等を含めて方々の就労支援を何故か東京のIT企業と一緒にやっています。テレワークであれば働ける方々がたくさんいらっしゃるので、本当は長野の会社さんとスタートしたかった。信州ITバレー構想が県で策定されて、県立大学を含めシソーラスさんと皆さんで一生懸命にやっていたら承知していますが、現状では東京や関西の企業さんと障害者の就労について考えている状況です。

まず1点として、長野のIT企業さん方が、こういった福祉やテレワークといったところに「一緒に参画していこうよ」と言っていただけたら、働く側も企業側もお互いに理解しあえると思います。これは目標の1かもしれないし3かもしれないと思っています。

子どもたちや障害がある方々と話をしている、皆さんの目標の中でキーとなるのは働くということです。

最近は幸せな未来を描けない子どもたちが結構多いのですが、その子たちに理由を聞くと「働きたい会社が長野に無いし、大人たちは楽しくなさそう」と言われてしまっていて、そう考えると私たちは働くということについて、何件紹介したからとか、いくつ会社があるからといったところだけではなくて、会社の質ではないのかなと思います。

そこを含めてこの目標1の部分が少し大切にされると嬉しいなと思いました。「働くという事は苦しいことではなくて凄く幸せなことなんだよ」というメッセージを子どもたちにも、障害があっても働くのをためらっている人たちにもプレゼントできたら嬉しいなというのを日々感じながら仕事しているもので、発言させていただきました。

(金物会長)

ありがとうございます。今のご意見ですが、目標1か3かなとおっしゃっていましたが、目標2番も関係しそうですね。

(清水委員)

そうですね。目標2も関係あります。テレワークという働き方は、長野に住んではいても、仕事が出来るといふ能力を東京に移住させているのもったいないと思いますし、その逆もしかりかなと思います。

(小木曾委員)

今の清水さんのお話が凄く胸に響いて、確かにそうだなと思って聞いていました。例えば、担当している学生たちもそうですし、我が家の子どもたちに「将来に何になりたいの」を聞いても「会社員かな」といった感じの答えが返ってきます。

これは、身近で働いている大人の姿しか見ていないので、長野らしさといったところが職業に結びつかないということは確かにあると思います。例えば、資料の1-3にある「ナガノのシゴト博」は学生や社会人向けですが、子どもを対象にできないのかなど。役所が作ると堅くなるので、デザイナーや漫画家さんにキラキラした感じで地域の仕事をらせてほしいと思います。

夢ばかりではなくて、働くことは大変なこともたくさんありますけれども、先程清水さんがおっしゃったように、「働くことって凄く幸せなことなんだ」ということを前面に押し出したほうがいいと思います。

(事務局)

特に子どもの頃からの地元愛、地域愛というものは大切に、いずれ帰ってきたいと思うとするならば、それは小さい頃からのように地元のことを想っていただけているかということだと思います。

現状の事業としては大学の卒業期と社会人ということで東京での説明会を実施しております。その手前にインターシップがあり、最近ではインターシップをやらなければ仕事を選べなくなっていると思います。就職面接と違って、職業体験と面接を一緒にするというところが大きな違いです。

その前の高校生では、先日開催した「未来ビュー長野」では地域の企業が集まって仕事を

見て体験していただいて高校1年生、2年生のときから仕事を考えていただくというような形もとっています。更にその下の年代では小学校4年生にリーフレットを配っています。

子どもの頃の夢ということで、看護師さんになりたいですとか、お嫁さんという時代もあったと思いますが、そういったことをどの年代レベルから進めるのかということも考えながら進められたらと思います。

これから重要なのは小木曾委員がおっしゃるとおり、教育の中でどうマッチさせるかということですので、市教育委員会や高校も含めて、協力関係を作りながら進めたいと思います。

(小木曾委員)

先程も話があったと思いますが、女性が活躍している企業さんや、障害をお持ちの方が活躍している職場をもっと取り上げていただいて、是非、小学生、中学生にアピールしていただきたい。

もう1つは、学生が就職活動をするときに、テレビで見たところにしか就活にいかないの、企業はもっとアピールしていただいいていいと思います。CMをしてなくても立派に経営されている会社などたくさんあるはずなので、そういった企業が長野にあるということをPRしていただければと思います。CMのサポートといったものも市の方でできたらいいのかなと思っています。

(事務局)

そういった部分が情報発信の差だと思いますし、長野市の場合は、基本に中小の企業さんが多いため、PRする部分に力を注ぐことがなかなか難しいというのが現状かと思えます。

例えば、親御さんも含めて、地域の企業への理解を進めるといった部分を今後の取組みの中でもっと進めるべきというご指摘も1つのご意見になってくるかと思えます。

(伊藤委員)

定住策の話ですが、私も長い間ずっと東京で働いていまして、地元長野と東京は20年以上見ているつもりです。

長野市から東京に出ている人がたくさんいますが、基本的に住居費が高いですし、少くくらい給料高くても実際はそんなに裕福な生活はできません。

東京は、確かに大きい企業がありますが、非正規雇用が多く先ほど小学生が将来の希望が無いと言っているところに繋がりますが、それは当然の帰結で昔のような経済成長はありませんし、人口が増えてないのに、経済だけでやるのは無理があります。

そういった意味で長野の良いところは地域が残っています。

また、長野の企業はすごく立派で、特に製造業は中堅企業も多く、経済状態はそんなに悪くないと思っています。

ただ、インバウンドや定住策と言いますが、インバウンドは日本の物価が安いから来るのであって、物価が高くなったり、東京オリンピック終わればそんなに来ないと思います。

本当に大事なのは、首都圏に住む中間層の人です。首都圏でも苦しい生活をしている人がたくさんおり、例えばそういう人たちが長野に来れば、公営住宅が無料で入れるといったことでも良いと思います。たくさんある空き家を市営住宅にするなど、中間層で生活に余裕がない人たちに長野に住んでもらうための施策で環境を整えれば自然と定住してくる人もいると思います。

特に若い人は、仕事があるからなんとなく東京にいてだけで、そんなに生活が楽ではないので、地方に住みたいという人はたくさんいます。

I Tの人材を増やすといったことや交付金がもらえるからというよりは、家や教育などのベースラインで生活を楽にしてあげるといった施策を増やすことが一番の効果的だと思います。

(梅干野委員)

今、何の議題を審議しているのかちょっとよく分からなりましたので、確認ですが、何を議論しているのでしょうか。

(金物会長)

総合戦略に向けた審議会での議論ということで、今の総合戦略を総合計画に統合に向け2年間延長して第五次総合計画に結んでいきますが、この2年間の延長の間に今取り組んでいることの中で何に重点を置いて最後の2年間やったらいいかということ議論していただきたいです。

(事務局)

例えば、この分野に力を入れるべきだというような、今日のところはそのレベルかと思っております。まだ、具体的な提案のところも細かいところまでお聞かせいただけていない部分もありますし、例えば今程の30代、40代については、就職氷河期世代をどう取り込むかという観点に近いご発言なのかなと思いましたが、そういった形でいただいた意見を私どもで整理をさせていただき次回までにお返ししながらもう少し詰めていきます。突然どこかの部分を書き直すというような議論はしにくいかと思いますので、今日のところはこういった提案、こういった事業をやったら、こういった部分が足りないのではというところまでお聞かせいただければと思っています。

(横地委員)

事前にいただいた資料の中で、関係人口をどうするのかという扱いがありましたが、既に長野市は東京圏で勤めている方を長野市職員で取り戻したりということをやっており、それも1つの関係人口の取組かなと思っていますので、それは当然進めていくべきと思っています。

また、国の第2期の中で示された Society5.0 実現に向けた技術の活用、それから SDGs ですが、Society5.0 の実現は、全体の人口が減少していく中で当然積極的に進めていかないとはいけませんが、延長版の総合戦略は2年であり、またその後は総合計画の後期基本計画の中に包含していく作業が令和2年度中に始まると思いますので、そういうことを考えますと、この2年の中であえて取り込まずにじっくりと後期基本計画の策定作業の中で取り入れていけばいいかと思っています。

それから、SDGs は17の目標と169のターゲット、具体的目標とで構成されているということで、まさに全世界共通の総合計画と言えるのではないかと思っています。そういった意味で、これもあえて2年の延長の中で入れずに次期の総合計画 後期基本計画の中でじっくりと考えていくことが良いのかなと思っています。

それから、重点項目について、これまでの議論では社会増という部分に特化しているような感じがありますが、目標3の少子化対策子育て支援の基本的方向の中に、結婚・妊娠・出産とあるように、一番の根本の自然増を図る部分、そこに白旗を上げるのはどうなのかなと思っています。

基本的方向に、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援とありますが、昨今の晩産化の傾向がある中で、結婚というのはその後の妊娠・出産・子育てとは別の方向で考えるべきではないかと思っています。

最近では、どこの県でも、結婚について立ち入ってきているということで、特に、愛媛県ではビックデータを使って1千組の実績を上げているほか、長野県でも結婚婚活支援センターが設置され、実績を上げています。極端なこと、そのぐらい思い切ったことやらないと自然増に繋がらないかと思っています。

長野市にもマリッジサポート課がありますが、今までは、妊娠・出産・子育てというのは、行政が比較的支援しやすく、結婚についてはなかなかできなかった部分であるので、ここを切り離して、県レベルで何かできないかなということを考えていいのではないかと思っています。

(金物会長)

今、ご意見いただいたのは、資料2-3をもう1回見ていただいて、現行の体系でどの重点にするかをお話ししていただきましたし、3番の国が提示した新しい視点を取り入れるかについてもご意見をいただきました。資料2-3の2ですが、数字目標やKPIの見直しが必要かということに関しては、この場では議論にならないかなと思いますが、よろしいですか。

(事務局)

はい。結構です。

(牧野委員)

先程の池尻さんがおっしゃったみたいに、長野の色を入れられなかったら、あとはどう変えてもどこが進めても同じような内容になるのではないかと思います。

皆さんが大事に思っている部分は一緒に気がするので、この議論はあまり意味がないのではないかと感じてしまいました。

また、アンケート結果を見たときに、この「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について知っていますかという問いで、8割ぐらいの人が「知らない」または「聞いたことはあるが内容は知らない」となっていて、先程、梅干野委員がおっしゃっていた、テーマなりサブタイトルがあって、何かインパクトのある感じであれば、市が何をやっているかが市民に分かりやすくなるのではないかと思います。

先程、「幸せ実感都市ながの」の下に「オールながので未来を創造」とありますが、市民の人たちにも浸透していかないと進んでいかないのでと思いました。

今は市が内々で進めていて、堅い感じが強いので、市民の皆さんがパッと見て分かってもらえる工夫が必要なのではないかと思います。

(大日方委員)

今のご意見にすごい賛成です。この資料を見たときに、市民からすると市に何かを求めたいと思ってしまうのですが、市民に分かりやすくキャッチフレーズを付けることで、市民の皆さんに行政の方向性が浸透するのではないかと思います。

あと、目標1から4が、どの視点で見るとということによって、全部繋がってくるのかなと思っていて、私だと子育てが自分事ですが、子育てには仕事や地域の住みやすさ、地域の魅力は大事ですし、仕事していく上でも働きやすい環境で家庭生活がしっかりしていないと仕事もしづらと思いますし、地域が良くなるためには、子どもがいて仕事があつてということが必要なので、例えば、この目標1から4をどの視点で見えていくかという部分で、キャッチフレーズを付けたりしても良いかと思います。

また、先程、池尻委員がおっしゃっていた長野のカラーを入れるということもとても大事だと思います。

(池尻委員)

私は、子育て支援に係わっているので、現状、どういうことが問題と思っているかをお伝えしたいなと思って発言します。

まず1つが、私は助産師なので、赤ちゃん訪問で各家庭を伺わせていただく中で感じるこ

とは子育てに関して支援してくれる人が周囲にいない家庭が割合として多く、お母さんが一人で頑張っている状況があります。

長野市は、産後ケアで宿泊型の部分は、助成が出るのですが、例えば、上の子がいて入院日数を延ばせないという方は、家に帰ってから支援の手が必要で、週に2回ヘルパーさんに来てもらうといった支援の仕方があります。

しかし、所得が多い場合や近くに母親いたりすると利用できないといった制限があります。また、産後のお母さんたちは自分のためにお金を使うということにすごく気持ちを引き裂かれる部分があります。

そういう条件の人は支援しないよというのは、ちょっと違うのかなと思います。そうになってしまうと、この子育ての切れ目ないというのが、どこかで切れてしまうのではないかなと思います。

行政ですので、所得が低い人や、弱者のところに手をかけるということは大事ですが、お産、産後の部分、産後うつとかいろいろ言われていますが、そういった部分では、そういった道理が通じていない部分があるということも知っていただきたいと思います。

あと、赤ちゃん訪問に行つて思うことは、お母さんがすごく疲れている。先ほど結婚率や出産の率を上げたいというお話がありましたが、疲れているお母さんやお父さんを見ていて、子どもたちが将来結婚したいなんて思わないと思います。結婚して、お父さんとお母さんの仲が悪いか、お母さんが大変と言っているのを見ていて、将来この子どもたちが絶対そんなことを思うはずがないと思います。

大変な部分があっても、「子どもがいてよかったよ」や「結婚してよかったよ」という人の話を聞くと、そういった子どもの教育が大事になってくると思います。

あと、私自身で保育園を3園運営しており、女性のスタッフがたくさんいます。先ほども女性にもっと役割を持ってもらうというところもありました。

しかし現実として、私の会社でもあるのですが、例えば赤ちゃんがなかなかできなくて妊活したい、でも、保育士としてのキャリアもあるし役職も持っている、その中でどうやって妊活していくのか、といった悩みがあります。会社としてなんとか支援していきたいと思うのですが、具体的にどのようにしてあげたらいいのかは、まだ分からない部分があります。

また、子育て中のお父さんが残業して帰宅するのが夜の9時、10時、そんな中で子育てしている方が多いです。もっとそういったところで、行政が企業に向けて子育て中のお父さんたちが早く帰れるような施策を打ち出してくれると、世の中も含めて、子育てという部分も変わっていくのかなと思います。

また、保育園を運営していると入園できる認可保育園がなくて、働きたくても働けなという方からたくさんご連絡がきています。私たちも出来るだけその支援をしたいと思っていますし、長野市の状況をよく分かっているのですが、もう少し違ったやり方があるのではないかと、市だけではなく民間も入れながら考えていただけたらと、日頃子育て支援に係わって感じることです。

(廣田委員)

4つの中で、なかなか絞り切れませんが、どれも繋がる部分があってというようなところかと思うので、そこをどう繋ぐ人が地域にいるかというところかと私は思っています。資料2-5のところですが、目標4のところ、「地域の住民やNPOなど重点的な活動による地域の実績に合わせたきめ細かな手法による地域課題解決や活性化の取組を支援します」という部分がありますが、地域で活動していただいている方たちの力をどうここに活かしていくかというところが長野らしさにも繋がるのではないかと思っています。

市としていろんなことを打ち出すのも難しいのと同時に、一つ一つの活動をしている方たちがそれを打ち出していくのはもっと難しいことだと思うので、そこを市と連携して、中も外にも発信していくような形を作っていければ、また、長野らしさを広範囲に広げていくことに繋がると思いました。

(金物会長)

今日はいくつか意見が出た中で、目標1、2、3、4と分かれていますけども、結構一緒のところでは根は繋がっているのではないかという意見が何度も出ましたし、今後の議論に活かしていただければと思います。

時間になりましたので、議論を終了したいと思います。

このあと、次回の審議会のワークショップに向けてどう進めるかを事務局から説明をお願いします。

(事務局)

はい。今のところどの分野かは確定していませんが、2月にいただいた意見と今回いただいた意見を含めて概ねそこに近い分野、例えば、目標1の雇用関係に特にご意見がある方については、まずそちらをどうかというような形でご説明をさせていただいた上で、人数も含めて考えていく予定です。

次回のワークショップについては、特に進め方が難しいのではと思っております。特定の何か決めてくださいという審議であれば比較的議論を詰めやすいのですが、既にあるものに付け足すのか、足さないかを含めて全体的に見ていくことになるので、議論をしにくいと思っていますので、事務局の案を示したうえで議論いただく形の方法がやりやすいのかなと思いますので、案を示しながら議論いただくという方向でいかがでしょうか。

(金物会長)

そういう意味で、今日はある方向に向かって議論を進めていくという形にはならなかったのですが、委員の皆さんから様々な意見が出ましたので、その辺り、整理していただいて、また次の段階へ進むということでもまとめていただければと思います。

(梅干野委員)

特に後半、いろんな委員さんから出た意見として、この目標 1、2、3、4 で細分化して議論をしても、意味がないのではないかと言いますか、問題はいろんなところで重なっているという意見がありましたが、それでもなおワークショップは目標別に分けるということですか。

(金物会長)

今日はそういう意見が多かったものですから、ワークショップのやり方ですが、基本はある一定のところに収束するのだらうと思います。

その辺りに向けて話をしていくワークショップがいいのではないのかと思います。

(事務局)

毎回こういう形でお集まりいただきご意見を言っていただくということになりますと、意見を言うタイミングというのなかなか取りにくいのかなと思っておりますので、もう少し相互に気軽にお話しいただくような形の時間を取れてもいいのかなというレベルで考えております。特にこのテーマは目標の 1 から 4 に広がっていただいても結構だということです。何人かのグループでお話しいただいて、それぞれ意見の中でこういうこともあるのではないかと引き出しいただくような形にできればと思います。

(荒井委員)

ワークショップに関するものですが、多分、ある程度の道筋と申しますか方向論について共有した上でやらないと時間の浪費になってしまうかなと思いますので、そこはご検討いただけたらなと思っています。とりわけ、大人数で議論をしていることに課題を感じてワークショップにするのでしたら、どこのテーマについて誰が属するというよりはグループに分けて全部のテーマについてそのグループで話すという方法もあるでしょうし、全体像を見ても全体像が分からない、サブテーマが必要だ、象徴するものが必要だとするならば、そこに焦点を当ててというようなブレイクストーミングをしていくことでも意味があるかなと思います。重点の付け方が、何を根拠にどんな重点を付けるのかというのがそれぞれの印象論になってしまいますので、そこを含めて誰がファシリテーターをするのかや、グループでの議論の後に全体でシェアする必要があると思いますので、一工夫していただけたらと思います。

(事務局)

事前にこういった形でこういう方向でどうでしょう、とご説明に伺わないといけないのではないかと事務局では考えております。進め方も、私どもでシミュレーションしてみた上

で、いくつか参加者ともご相談させていただきながら決めていきたいと思います。

(金物会長)

それでは進行を事務局にお返しします。

4 その他

(事務局)

ありがとうございました。

活発なご意見をありがとうございました。

それでは、事務局から次回の日程についてご報告申し上げます。

次回については、9月13日の金曜日、午後3時からです。場所は市役所の第一庁舎7階の第1、第2委員会室を予定しています。その次の審議会は、11月22日の金曜日、時間は午後3時から、場所は市役所の第二庁舎10階の講堂を予定しています。

今、お話にもありましたように、次回、9月13日は、ワークショップ形式でという予定でおりますが、長野市の部局長についての出席は、今回は求めないものいたしますのでよろしくお願いいたします。

5 閉会

以上をもちまして会議の内容はすべて終了となります。

これにて閉会となります。ありがとうございました。